



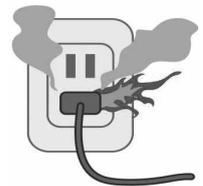
## 電気の通電時には十分注意が必要です

先月日本に上陸した『台風10号』の影響により、広範囲にわたる長時間の停電が発生するだけでなく、土砂災害が発生し、多数の死傷者をだしたことは、みなさんの記憶に新しいと思います。みなさんの生活において最も身近な電気ですが、災害発生時には次のことに注意しましょう。

- ①風水害が発生し、停電からの再通電時において、電気機器または電気配線からの火災が発生するおそれがあります。風水害により停電が発生したら次のことに心掛けましょう。
  - ・停電中は電気機器のスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜きましょう。
  - ・避難のため自宅を離れる際はブレーカーを落としましょう。
  - ・再通電時には、漏水などにより電気機器が破損していないか、配線やコードが損傷していないか、十分に安全を確認してから電気機器を使用しましょう。
  - ・建物や電気機器に外見上の損傷がなくとも、壁内配線の損傷や電気機器内部の故障により、再通電から長時間経過した後、火災に至る場合があります。少しでも異変を感じたら直ちにブレーカーを落とし、消防機関に連絡しましょう。
- ②トラッキング現象には十分注意しましょう。
 

コンセントやテーブルタップに長期間電源プラグを差し込んだ状態していると、コンセントとの隙間に徐々にほこりが溜まり、そのほこりが湿気を帯びることによってプラグ両極端に火花放電が発生します。これをトラッキング現象といいます。トラッキング現象を発生させないためにも次のことに注意しましょう。

  - ・使用する前に電気製品の取扱説明書をよく読みましょう。
  - ・コンセントやコードには使用できる電力量に制限があります。1つのコンセントにプラグを差しすぎないよう定格容量を確認し使用しましょう。
  - ・コンセントに差したままのプラグにはほこりが付着します。こまめに掃除しましょう。
  - ・長年使用している電気製品は、定期的に点検し、使用していない電気製品を使用する際には、専門業者に点検を依頼し、安全を確認してから使用しましょう。



## 設置してある住宅用火災警報器は作動しますか？

家庭内での火災の発生をいち早くキャッチし、音で知らせてくれる住宅用火災警報器（住警器）が古くなってはいませんか？ みなさんの住宅に住警器を設置し10年が経過します。住警器の電池の寿命は10年程度であり、せっかく設置していても、古くなり作動しないのであれば意味がありません。古くなったものは交換しましょう。

音が鳴った際は焦ってはいけません。まず、周囲に煙・火の気がないかを確認しましょう。煙が充満している時や、火が天井まで届いている時はただちに避難してください。火や煙が確認できなければ、次の①・②の可能性がります。

- ①電池切れに注意しましょう。
 

住警器は電池が切れると作動しません。切れそうになった際は音や光で知らせてくれます。
- ②ほこりに注意しましょう。
 

ほこりが機器内に入ると誤作動を起こす場合があります。またそのままにしておくと故障の原因になりますので十分注意しましょう。



①の場合は、新しい電池に交換し様子を見ましょう。それでも鳴動するのであれば、②のように住警器のセンサー部分を掃除してみましょう。それでもダメなら交換しましょう。